



Share Rotary— Serve People

みんなにロータリーを
みんなに奉仕を



会長 内山喜一 幹事 齋藤 隆 副会長・クラブ奉仕 佐藤順治 職業奉仕 石川寿男 社会奉仕 佐藤 衛 国際奉仕 三井 健 青少年奉仕 小池繁治

出席報告：会員 75 名 出席 58 名 出席率 77.33% 前回出席率 77.38% 修正出席 70 名 確定出席率 93.33%

会 長 報 告

内 山 喜 一 君

先々週の例会でした。8月は原爆投下と終戦、そして38年間の平和、この平和は末永く続くようにと申し述べたのですが、今週にはいって間もなく、大韓航空の事件が発生致しました。毎日の報道を聞いておられますと、愈々複雑な様相を呈しております。何はともあれ一日も早く平和的解決をと願う次第です。それに多数の犠牲となられた各国の方々のご冥福を心からお祈り申し上げる次第でございます。

次に話は変りまして、ご報告申し上げます。9月4日第253地区庄内分区のI.G.F.(インターシティ・ゼネラル・フォーラム)が酒田R.C.をホストとして、酒田市総合文化センターで開催されました。当クラブからの参加者16名。4分科会のフォーラムには、極めて有意義な意見交換を得まして、のちほど4部間の委員長さんからご報告をお願い致します。

○同じ9月4日、鶴岡ライオンズ・クラブの20周年記念式典が鶴岡市文化会館で開催されました。当クラブから新穂光一郎さんに出席して頂きました。極めて多彩に盛會裡に終了されました。誠にご同慶に耐えません。

○理事会決定事項

各委員会を6つのブロックに分ける。

松田貞夫 (S.A.A.・出席・親睦活動・プログラム)

石塚敏彦 (職業分類・会員増強・外部拡大・会員選考)

工藤弘道 (雑誌広報・ロータリー情報・クラブ資料・会報)

佐藤 衛 (職業情報・社会環境)

三井 健 (国際青少年交換・ロータリー財団・米山奨学会・世界社会奉仕・国際親睦活動)

小池繁治 (青少年・インターアクト・ローターア

クト)

以上6つのブロックに分けて、ただし、これは懇親会・各種打合せ会・ファイヤーサイド等、少なくとも最少限このブロック単位で開催することにより、迫力を増加するのではと思う次第です。と申しますのは、委員長外1名又は2名での会合では迫りに欠けるとの声もあり、こうした統合もより効果的であり、委員会の運営もより合理的に考えられます。

尚、この件につきまして、今日5時からのクラブ協議会に一層具体的にお話し致します。

○地区からの70万寄贈の件

クラブ基金として定期預金に致しました。

○英語弁論大会の楯又はカップ新調の件

ご希望の物と交換する。

幹 事 報 告

齋 藤 隆 君

1. 会報到着

東京R.C. 鶴岡西R.C.

2. 南陽ロータリークラブ創立20周年記念式典のご案内

期 日 10月15日(土)

場 所 南陽市宮内熊野講堂證誠殿

登録料 10,000円

申込みは事務局まで

3. 例会時間・会場変更について

鶴岡西ロータリークラブ

期 日 9月16日(金)

午後6時点鐘

場 所 大山楼

登録料 4,500円

4. 鶴岡ライオンズクラブ20年のあゆみの記念誌到着

庄内空港の建設を推進しましょう

インターシティ・ゼネラル・フォーラムの報告

第1分科会

工藤弘道君

テーマ 「広報活動を
強化するには」

モデレーター 佐々木勇助君(酒田東)

アドバイザー 本間儀左エ門君(温海)

当クラブ出席者 川村徳男君・斎藤隆君・
白坂久君・工藤弘道君

○次の3点について参加9クラブより意見発表があり、今後の広報活動について参考とすべき有意義な情報交換の場となった。

1. 各クラブの広報活動の当年度計画・特色・効果的方法について
2. 「ロータリーって何ですか」と聞かれた場合に「どう」答えるか。
3. 地区に対する要望事項

○本間アドバイザー発言要旨

「効果的な広報活動と活発なクラブ活動は表裏一体をなすものである。元来、日本人は情報の受信力には強いが、発信力に弱い。会員個人がロータリー情報の発信力を強めることが、活発な広報活動になり、ひいては会員増強に結びつくのではないだろうか。」

第2分科会

渡部利夫君

会員増強部門

第2分科会は、温海クラブ渡部晃雄さんをモデレーター、鶴岡クラブ中江亮さんをアドバイザーに迎え、「会員を増強するには」をフォーラム・テーマに会議を進めた。

当クラブからは内山会長、佐藤副会長、小林会員渡部会員の4名が参加しました。

モデレーターは、ロータリーの友5月号に掲載されたレス・ホィットクロフト氏の“拡大か衰退か”述べている会員増強問題を参考に説きおこし、会員増強は単に一地域クラブの問題ではなく、ロータリークラブ全体の大問題であるとし、次のような形で討議を進めた。

- 各クラブの現状
- 各クラブのかかえる問題点
- 問題解決策

各クラブの現在会員数、1983～1984年の増強目標数、どんな方法で会員増強をすすめているかについて、各クラブより発表がありました。

酒田クラブ46名、9名を増加し55名を目標としている。46名の会員を9ブロックに区分し、各ブロックより1名の適格者の推薦を受け9名を増強する。

酒田クラブに見られる通り、会員増強を増強委員会まかせとせず、増強目標数と同数ブロックを編成して、会員の増強と取り組むクラブが多かった。

次に、退会者のロータリー批判、地域性からの入選のむずかしさ、会費の問題、出席率の問題、ロータリーの魅力について、会員増強と量と質の問題等等、どのクラブも大なり小なり色々むずかしい問題をかかえているが、何と云っても、会員を取りまく経済環境の厳しさが会員増強をより難かしくしている。然し、会員の増強と取り組まねばならない私共は、困難を克服し、ロータリーの機能を有効に活用し、より多くの人々とロータリーの喜びを分かち合うよう全力投球せねばならない。

第3分科会

小池繁治君

テーマ 「青少年へ奉仕するには」

モデレーター 大谷信夫君

アドバイザー 伊藤春夫君

当クラブ出席者 手塚拓君・中田敏和君・
小池繁治君

青少年非行問題がクローズ・アップされている時期柄、それについての意見の交換から会が始まり、各クラブより種々の問題が提起され、又活動の報告がなされました。その中で、余目クラブの活動が印象に残りました。余目クラブのそれは、余目の会社・商店・集会所等にポスター(青少年に声をかけよう等)を配布し、ロータリークラブが青少年に奉仕している姿勢を広く広報している事でした。又“親切どうもありがとう”と文字を入れた鉛筆を作り、交番等へ落し物を届けてくれた子供にあげていただくように用意されている事でした。当クラブでは青少年非行防止に手がける活動は非常にむずかしく、又問題を含む点で困難でもあり、今年度はむしろ青少年のボランティア活動に目をむけ、ロータリアン

が青少年にどうかかわり合えばよりベターなのかに問題をしばって活動したいと考えています。

第4分科会

佐藤元伸君

テーマ 「米山奨学会と
青少年交換について」

モデレーター 大川俊一君（鶴岡西R.C.）

アドバイザー 土門敏雄君（遊佐R.C.）

大川氏より米山奨学会のおいたちとその歴史について簡単な説明があった後、各クラブより現況と問題点について発言があった。

立川R.C.より米山奨学会の意義と目的について、会員に理解を求める方法に苦勞しておるので意見を求められた。これに対し7月25日臨時号ガバナー月信の中で、石黒パストガバナーが詳細に解説してある旨の報告がありました。

尚、庄内分区9クラブ中米山奨学委員会を単独に設けているクラブは当クラブのみであった。

その後、フォーラム・リーダーの作田正治パストガバナーより説明があり、最近米山奨学会の理解が深まり、昨年度で1億円の基金となり、近いうちに3億円の基金に達するであろうし、その奨学資金援助の月額引き上げが行われ、その充実に期待しているとのことであった。

青少年交換について、庄内分区に於てまだ一度も交換学生の派遣・受入れの経験がない立川R.C.より

発表があり、来年度10周年の記念事業と併せ是非実現すべく努力中との意見が出され、先輩クラブの皆様より派遣・受入れについての参考意見を聞かせて欲しいとの要望が出され、各クラブより発表がありました。鶴岡R.C.よりは、分区内に於ては最も早く最も多くの交換学生を受入れ・派遣を行って参りましたが、ホスト・ファミリーに対する金銭的なクラブよりの援助について現在、検討中であると発表致しました。それに対して、遊佐クラブ・温海クラブ・酒田クラブ等より、ホスト・ファミリーは交換学生と共に楽しみながら奉仕するのが努めであるとの意見が多かったようでした。

土門アドバイザーよりオーストラリアへの派遣学生に対する説明があり、各クラブよりの希望者は9月末日迄、地区青少年交換委員でオーストラリア担当の当クラブ会員の新穂光一郎氏迄申し込み下さいとの発表がありました。又、派遣学生に対する選考基準は、明るく、意欲的で、学業成績が $\frac{1}{3}$ 程度、英検の3級以上の語学力がある事を基準とするとの事でした。

その他、各クラブより受入れに対する考え方等が多数出されましたが、後日I.G.F.の報告書が出来ますので、参考にして下さい。

この研修会中に度々「鶴岡R.C.」の名と共に、良い意味での参考点を挙げられましたので、先輩諸兄の御努力の賜と感激しながら出席して参りました。

第2回クラブ協議会（要旨）

(1) ブロック別討議

各ブロック毎に、当面の活動方向・問題点について協議する。

(2) 全体会議

討議内容について各ブロック毎に発表

第1ブロック（松田貞夫君）

出席率を更に高めるため、座席配置・プログラム等に趣向をこらしてゆきたい。

第2ブロック（渡部利夫君）

会員増強を積極推進するため、6ブロック毎に新入会員2名を推薦願うような体制づくりを検討したい。

第3ブロック（工藤弘道君）

効果的広報ができるよう、クラブ内関係委員会と情報交換の場をつくり検討したい。

第4ブロック（佐藤衛君）

社会奉仕・職業奉仕活動の一環として、榊高砂電子機器製作所・鶴岡市下水処理場の見学会を近時実施したい。

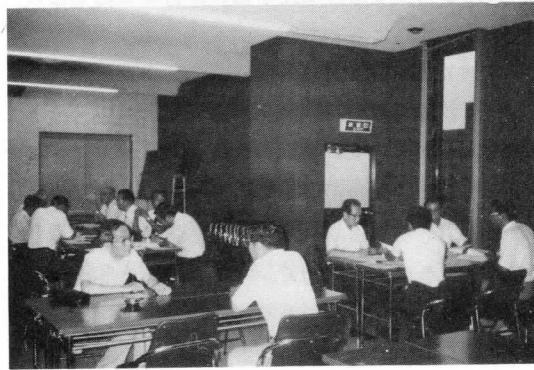
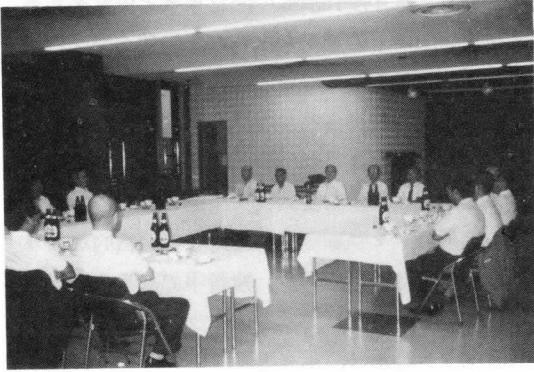
第5ブロック（佐藤元伸君）

特に報告すべき事項なし

第6ブロック（若生恒吉君）

ローターアクト・インターアクトとの協議会を近時実施する。青少年問題について学生との対話の場をもちたい。学生弁論大会に対し積極的に協賛のこととする。

（次頁に写真）



親睦活動委員会

会員誕生 小池 繁 治 君・今 野 清 一 君
 加 藤 賢 君・本 山 弥 君
 白 坂 久 君・上 野 三 郎 君
 渡 部 利 夫 君



ロータリー用語便覧 (6)

History of R.I.
 ヒストリー オブ アール・アイ
 国際ロータリーの歴史

1905年、経済恐慌で人心が荒れずさ
 んだアメリカ社会、特にシカゴ市は暗
 黒状態であった。この状態を憂えた青年弁護士ポー
 ル・ハリスは、奉仕の精神で人の和を図ることがよ
 りよい社会をつくり出す道であると考え、3人の友
 人と語り合ってこの理想を広く人々に呼びかけるよう
 第1回の会合を開いたのが1905年2月23日であった。
 即ちロータリー誕生の日である。

ロータリーの名称は、集会を会員各自の事務所
 で持ち廻って開いたので付けられたものである。ロータ
 リーの理想に共鳴する人々は友の輪を拡げて行き、
 1983年7月現在のR.C.は157ヶ国においてクラブ数
 20,114、会員総数917,500名に達している。

奥様誕生 三井 糸(徹)様
 三井 順子(賢二)様
 本山京子様・染野恵美子様

8月100%出席 57名

阿蘇君・白坂君・阿部君・佐々木(栄)君・張君
 藤川君・渡部君・飯白君・今野君・石井君・石
 川君・石黒君・板垣(俊)君・市川君・加藤君・
 松田(士)君・川村君・黒谷君・小池君・小松(広)
 君・三井(徹)君・三井(賢)君・三井(健)君・嶺
 岸君・迎田君・本山君・森田君・諸橋君・中江
 君・中野君・中村君・松田(貞)君・庄司君・佐
 々木(結)君・斎藤(昭)君・斎藤(隆)君・佐藤(忠)
 君・佐藤(順)君・佐藤(衛)君・佐藤(友)君・中
 田君・佐藤(元)君・新穂君・菅原君・鈴木(茂)
 君・鈴木(弥)君・鈴木(善)君・小松(三)君・高
 橋君・丹下君・津田君・手塚(林)君・富樫君・
 風間君・山口君・吉野君・内山君

ビ ジ タ ー

温海R.C. 斎藤五郎八君
 鶴岡西R.C. 足達一見君

会 報 訂 正

当クラブ会報8月30日付第1221号は、第1222号の
 誤りであります。おわびして訂正致します。

(今週の担当者 嶺岸光吉)

わが国のロータリーは1920年(大正9年)10月20日
 三井銀行役員米山梅吉氏を会長として創立、翌10年
 4月1日、世界で855番目のクラブとして加盟を証
 認された。大戦中、軍部の圧力により昭和15年一時
 脱退のやむなきに至ったが、戦後復帰し、現在のク
 ラブ数1,575、会員数88,634名に達している。

最初のロータリー例会を行なった所はシカゴ市デ
 ィアボーン街のユニティビルディングにあった鉱山技師
 のガスターバス・ローアの事務所に、仕立屋のハイラ
 ム・ショーレーと弁護士ポール・ピー・ハリスおよび石
 炭商シルヴェスター・シールの4人が集まったので
 この4人をロータリーの4祖ということがある。

クラブの名も、はじめはブースターといていた
 が、やがて会員の仕事場を見聞するために会合を回
 り持ちにし、会長や役員も1年毎に回り持ちにした
 ところからロータリーと名付けられた。会員の増加
 により、会員の事業所で会合することが困難になり、
 例会場を特定の場所にするようになった。